

# 岐阜農林事務所の普及活動状況

平成29年7月31日現在

## 今月の重点活動

### ■えだまめ **GAP現地調査実施**

7月14、21、24日に、JAぎふえだまめ部会は、部会員(合渡、島地区)を対象に、GAP現地調査を実施した。6月に開催されたえだまめ部会役員会において、部会全体でGAPの取り組みのステップアップを目指すことが確認され、昨年よりも調査項目数を大幅に増やして取り組むことを決定していた。

調査項目が増えたことから、現地調査方法や新たな項目の周知の仕方など、生産者だけでなく関係者にも戸惑いを感じる声が聞かれたがその都度改善に向けた意見を出し合いながら取り組みを進めている。

今後、農業普及課では、調査結果を取りまとめ、改善が必要な項目の対策などについて検討する予定である。  
(園芸産地支援第一係・川部 知)



【GAP現地調査の様子】

## 新たなブランドづくり

### ■にんじん **にんじん料理コンクール開催**

7月1日、各務原市内において、全農ぎふ及び各務原市園芸振興会にんじん部会は、第10回にんじん料理コンクールを開催した。

応募49点から選ばれた5点の料理を実際に調理し、試食を行って最優秀賞を決定した。このまま店舗に出せると言われるほど完成度の高い料理もあり、これらのレシピは今後市内飲食店にも紹介される。

審査後には、過去のコンクール優秀レシピが市内飲食店の定番料理となったメニューが提供され、大いに応募者の励みにもなっていた。

農業普及課では、今後も関係機関とともに、地元から愛される各務原にんじん産地づくりの取り組みを支援していく。

(地域支援第二係・魚住雅信)



【にんじん料理の試食】

## 多様な担い手づくり

### ■集落営農 **本巣市金原地区の集落営農について検討**

7月10日、本巣市金原地区を対象に、本巣市、JA、当所(農業振興課、農業普及課)等関係機関が参集し、担い手育成重点推進地域推進チーム員会議を開催した。金原地区は、高齢化、人口の減少に起因する後継者不足や遊休農地の増加等の課題を抱えており、今年度担い手育成重点推進地域(集落営農育成タイプ)として選定されている。

金原地区で最も水稻作付面積が大きい生産者が同席し、今後の集落営農について検討した。この生産者は集落営農組織設立に意欲的で、自ら代表者となる考えをもっているが、地域の意見はまだ反映されていないため、7月末に地域の人を交えて市、農業普及課と検討を行うこととなった。  
(地域支援第三係・岡田隆史)



【チーム員会議の様子】

### ■かき **瑞穂市柿振興会・初心者向け柿基礎学習会開催**

7月15日、JAぎふ巣南柿選果場において、瑞穂市柿振興会が、柿の担い手育成を目的とした柿基礎学習会を開催した。今回は、普段勤めがあったり、親世代が研修会に参加するため、研修会に参加できない次世代の担い手候補を対象として開催し、約20名と多数の参加があった。

農業普及課が講師として、柿の年間作業や当面の主な栽培管理について、基礎的な内容を中心に指導を行った。参加者からは多くの質問が出され、非常に熱心に取り組んでいた。今後とも、次世代の担い手確保に向けて、あらゆる機会を捉えて支援していくこととしている。

(園芸産地支援第二係・西垣 孝)

## 売れるブランドづくり

### ■水稲 高富地域のラジヘリ防除始まる

7月18日から、高富地域の水稲早稲品種の第一回目ラジヘリ防除が始まり、一時的な少雨があったものの、予定通りの防除が実施できた。今年は、5月までの高温傾向もあり、すでに走り穂が見られるほ場もあった。

農業普及課は、防除の日程計画と薬剤選定について連携支援を行っており、今後も9月上旬にかけて、2地区4品種で延12回の防除を予定しており、安定生産に繋げることとしている。

(地域支援第三係・飯沼清敏)



【ラジヘリ散布の様子】

### ■いちご 平成28年産いちご反省会開催

7月3日、岐阜市内のホテルにおいて、JAぎふ岐阜市いちご部会の平成28年産いちご反省会が、約70名の部会員出席のもと、開催された。

平成28年産のいちごは、9～10月の天候不順により定植が遅れたものの、出荷量は徐々に増加し、年内出荷ピークは12月下旬～1月上旬となった。その後、昨年より出荷の落ち込みが少なく推移し、全出荷量・販売金額とも昨年よりやや増加した。

農業普及課からは、平成28年産の反省点とともに、GAPの現地調査結果やセミナーの開催について説明した。今後も、今年の反省点を踏まえ、平成29年産の安定生産に向けた技術指導を行う予定である。

(園芸産地支援第一係・三和浩一)



【反省会の様子】

### ■アスパラガス 夏芽目揃会・役員会開催

7月28日、JAぎふ下中支店において、JAぎふ羽島市アスパラガス部会の夏芽出荷目揃会が開催された。

気温が高くなる中、岐阜岐阜青果(株)の販売担当者から、出荷物の穂先の開き具合の目揃えが徹底されていない点について指摘があり、実物を見ながら出荷できる穂先の開き具合を全員で確認し、農業普及課からは、今後の栽培管理について情報提供した。

目揃会終了後に役員会が開催され、昨年度開催し好評だった視察研修会について、本年度の日程、視察先等を決定した。

農業普及課では、今後ともアスパラガスの安定生産に向け、視察研修会や栽培管理の指導を行う予定である。

(園芸産地支援第一係・松浦香絵)



【夏芽目揃会の様子】

## 住みよい農村づくり

### ■えだまめ 第9回えだまめ収穫体験開催

7月16日、岐阜市寺田のほ場において、第9回岐阜えだまめ収穫体験が開催された。

今年は、昨年までの課題であった栽植株数の増加、駐車場確保のため、開催日・会場ともに変更しての開催となったが、猛暑日にも関わらず、朝早くから多くの来場者が訪れ、受付開始前には長蛇の列ができ、約800人が6,000株余の収穫体験を楽しんだ。

農業普及課では、収穫体験の円滑な開催に向けて、関係機関と連携し、収穫体験ほ場の設置から栽培管理、開催までの運営全般に係る支援を行った。今後も、収穫体験全般についての反省点、課題などを整理し、部会役員会で提案するなど、支援を行う予定である。

(園芸産地支援第一係・川部 知)



【収穫体験の様子】